
短編「幽靈騒ぎ」

鳥海 ドゥンガ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短編「幽靈騷ぎ」

【Zマーク】

Z4314F

【作者名】

鳥海ドゥンガ

【あらすじ】

とあるスーパーの休憩室。パートのおばちゃん3人が、近所でおきた幽霊騷ぎのウワサ話をしていくと・・・?

とあるスーパーの休憩室に、パートのおばちゃん三人がお昼の休憩をとるためにやつてきました。

三人がおしゃべりに花を咲かせながら、畳ほどの広さの休憩室に入ると、部屋にはまだ若いこの店の店長がひとり、背中を丸めて席に座っていました。

三人のうちの一人がおしゃべりの流れを止めて店長に声をかけます。「あら店長、今日はお休みじゃなかつたの？」すると店長は力の無い、疲れた笑顔を見せ、「いやー、お店のことが気になつて何となく来ちゃつたんですね。売り上げが落ちると怖いですから・・・」

おばちゃんたちは「大変ねえ」とか「まじめねえ」とか「休みの日くらい仕事を忘れてパアーツとしてくればいいのに」とか言いながらテーブルに着くと、また自分たちのおしゃべりに戻りました。お弁当を食べながらも、おばちゃんたちのおしゃべりは途絶えることありません。

「そういえば、駅前のマンションの幽霊騒ぎ聞いた？」

「聞いた聞いた。けつこうたくさんの人人が幽霊を見たって言つ話よねえ」

「やだわー、こわいわー」

「エレベーターとか階段の踊り場とか駐輪場とか、色んなところに出るつてウワサよ」

「やだわー、こわいわー」

「夜遅くに帰ってきてエレベーターに乗つていると背後に気配がして、振り返つて見ると髪の長い女の幽霊が立つてるんだって」

「イヤー！こわい！」

「階段の踊り場から外に飛び降りる髪の長い女も目撃されてるらしいわよね。飛び降りた先には誰もいないんだって」

「イヤーーー」「わい！」

「自転車に乗るうとして駐輪場に行くと、自分の自転車に髪の長い女が座つていて、「すいません、使いたいんですけど」って声をかけたら悲しそうな顔をしてフツと消えたっていうこともあつたらしいわね」

「イヤーーー」「わい！」

「こわいわよねー。私、そんな目にあつたら絶対にアワ吹いて気絶しちゃうわ」

「私は大声だして逃げるわねー」

「でもや、幽靈って見たことある？」

「うん、一度も無いね。私、靈感ゼロなのよ」

「私もそり、靈感ゼロ」

「幽靈って、実際に会つたらすごくおつかないけど、今まで会つたことが無いから実はあんまり信じてないのよねー」

「下手に靈感の鋭い人つてかわいそうよね。見たくも無いのに幽靈見えちゃうんだもの」

「ほんとやうよ。あたしたちみたいに鈍感で団太い方がそういう面では幸せよねー」

「鈍感で団太いって当つてるわねー」

あはは、おほほという笑い声に包まれてゐる休憩室のすみつゝで話を聞いていた店長は思いました。

（おれ、幽靈なんだけどなあ・・・・）

実はこの店長、昨晩自宅で過労死してました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4314f/>

短編「幽霊騒ぎ」

2010年10月14日18時33分発行